

取組項目 ii	道路の無電柱化(電線共同溝整備費)(公共)	1,044,691	53	—	県管理道路利用者	県管理の国道、県道の電線類地中化を行った。	活動指標	整備延長(km)	7.6	7.6	100%	無電柱化を行うことで、大規模災害(地震、竜巻、台風等)が起きた際に、電柱等が倒壊することによる道路の寸断を防止するが、平成27年度については電柱等の抜柱がなく、無電柱化延長は0kmとなっている。	
	道路維持課	637,546	90	—			成果指標	無電柱化延長(km)	0	0	100%		
	心ふれあう道づくり事業	124,386	27	4,834	県管理道路利用者	道路の無電柱化事業に併せ、カラー舗装やデザイン照明など歩道空間のグレードアップをすることで地域住民の快適な空間創出を実施した。	活動指標	整備延長(km)	7.6	7.6	100%		道路の無電柱化に併せて整備を行い、今年度は5箇所まで快適な歩行空間を確保した。
							成果指標	快適な歩行空間を確保できた箇所数	5	5	100%		
	道路維持課	167,065	159	5,646	成果指標	整備延長(km)	6.2	—	—				
	成果指標	整備延長(km)	4	—	—								

3. 検証及び問題点の抽出

【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】

i) 道路の防災については、県管理の国・県道の道路路面等の危険箇所の対策事業を実施することで、災害に強く、安全・安心で快適な暮らしづくりに貢献している。引き続き、事業を続けることで、道路防災計画に位置付けているPDCAサイクルの実践を行い、点検や対策、災害履歴などの情報のデータベース更新を行っていく必要がある。

ii) 道路の無電柱化については、県管理の国・県道の電線を地下埋設することで、災害に強く、安全で快適な暮らしづくりに貢献している。

4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
i) 道路の防災対策 県管理道路の危険な道路路面等に対して、防災対策を実施することで、災害に強く、安全・安心で快適な暮らしづくりに貢献している。今後も引き続き道路災害防除調査費及び道路災害防除事業を継続していく。	道路災害防除事業	—	防災事業計画の対象には、現地点の「要対策」箇所だけでなく、台風・地震や経年的な劣化等により追加で防災対策が必要となる「新たに発生する箇所」を含んでいる。新たに発生する箇所は突発的な異常箇所であり予測が困難であるため、柔軟な対応を行っていく。	現状維持
	道路災害防除調査費	—	近年、ゲリラ豪雨など自然災害の脅威が増しており、当初の点検箇所以外からの災害の発生が見られる。今後も継続し、空中写真、地形図を活用した災害要因箇所の抽出、点検を実施し、道路防災事業計画に基づいてデータベースの更新等も進めていく。	現状維持
ii) 道路の無電柱化 電線を地下埋設することで、災害に強く、安全で快適な暮らしづくりに貢献している。今後も引き続き無電柱化事業を継続していく。	心ふれあう道づくり事業	—	道路の無電柱化事業に併せ、カラー舗装やデザイン照明など歩道空間のグレードアップをすることで地域住民の快適な空間創出を実施する必要がある。	現状維持